

守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価委員 杉本 真

1 教育委員会

子どもたちが楽しく学校生活を送り、必要な学力を確実に身につけ、将来に夢を持って成長していくことは、日本の未来を明るくする重要な施策の一つであるとの認識を持っている。

一方で、いじめ・不登校・SNSなど、今日、子どもたちを取り巻く環境には、早期に対応が必要としている課題も山積です。また、虐待・不審者・自然災害などから、かけがえのない子どもたちの命を守る社会のしくみを適切に整備していくことは、子どもたちを取り巻く状況が複雑に絡み合っている場合もあり、極めて重要な課題です。

このような中で、教育委員会が果たす役割は非常に重要であり、市民の期待も大きい。適切かつ機動的な施策や対応が望まれている。平成30年度は、教育長を含めて3名の教育委員会委員の方が交代されました。新しい発想で子どもたちを取り巻く重要課題にスピード感を持って取り組んでいただくよう期待したい。

2 学校教育課・指導室事業

(1) 教育環境の整備・充実

校舎の大規模改修時のエレベーターの設置を高く評価いたします。障がいのある児童生徒へ配慮した施設設備の改修は大規模改修時以外では非常に限定的な内容とならざるを得ない。御所ヶ丘小学校の校舎改修に伴うエレベーターの設置は、障がいのある児童のみならず、思わぬケガで松葉づえや車いすなどを一時的に使用しなければならない児童へも有効な設備である。エレベーターの設置は様々な状況下の児童生徒に対応できる必要不可欠な設備であるので、今後も計画的な整備拡充を望みたい。

(2) 学校教育プラン

①ステップアッププラン（確かな学力の育成）

どの子にも確かな学力を育成することは重要な課題である。茨城県学力診断テスト正答率の4年間の推移を見ると、守谷市の正答率は県平均を大きく上回っている。身に付けるべき学力が確実に定着していることがわかる。確かな学力を育成するための施策が効果的に展開されていることがうかがえる。特に、守谷市保幼小中高一貫教育の推進では義務教育9年間を中心とした連携のとれた教育活動が展開されている（ソフト面の充実）。また、学習に不安のある児童に対して個別の支援を行うサタデー学習支援教室の実施（登録児童85名に対し年間27回実施）や児童生徒の学力向上及び生活習慣や学習習慣の確立を図るための学習支援ティーチャー（小中学校合計で35名）・社会人TT（1名）の配置が行われている。このような多様な児童生徒への教育支援活動が適切に且つ効果的に行われていることで、児童生徒の学力の底上げが行われ、発展的な学習へ誘う指導ができる体制（人的支援＝ハード面の充実）が整えられていることを評価したい。

②ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

守谷市総合教育支援センターの来所相談数が増加している。不登校やいじめなど心に悩みを持つ児童生徒やその保護者、就学に関する相談を必要とする保護者のニーズが相談数の増加に表われている。困っている子どもやその保護者に寄り添った相談業務を始めとして、総合教育支援センターの事業に係る包括的な教育支援活動の充実のため、今後も経験豊かな相談員の増員等の充実を望みたい。

③ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

体力テストの結果（A＋Bの達成率）から、児童生徒の体力の向上が着実に進んでいることわかる。今後の取組みに期待したい。

④ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

中学校3年生が英検3級以上を取得した割合が50%を超えている。全国平均が23.9%であることと比較すると非常に高い取得率である。新しい時代に対応した教育を推進する上で特筆すべき成果であり高く評価したい。守谷市のALT（外国語指導助手）の導入は20年近く前から行われており、「全小中学校」「全学年」「常時配置」の原則を崩すことなく継続してきている。全ての児童生徒に余すことなくネイティブの英語を、という一貫した方針のものに進められてきている。このような先進的且つ継続的な取組みの成果が「英検3級以上取得」という結果に表出している。郷州小の児童アンケートでは96%の児童が「英語活動が楽しい。」と答えている。大井沢小の同アンケートでも94%の児童が「英語活動で積極的に話した」と答えており、小学校の段階からALTと連携した英語活動において、児童の意欲的な学習姿勢が育まれていることを高く評価したい。

⑤パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）

開かれた学校づくりや家庭・地域との連携においては、学校からの情報発信が欠かせない。各小中学校共にホームページによる情報発信が熱心に行われている。ホームページを毎日更新し日々新しい情報を発信（御所ヶ丘中）することで、学校への理解が深まっている。1日の平均アクセス数が2千件を超え（守谷中）、保護者・地域・学校の協力的な関係づくり構築に寄与している。今後も学校・家庭・地域の連携強化が図られることを期待する。

3 給食センター事業

学校給食は正しい食習慣の形成や好ましい人間関係の育成に寄与する重要な教育活動の一環であるとの認識を持つ。美味しい給食、安全な給食の実現のためには、給食費の未納削減に取組み安定した徴収が行われることが重要である。給食費未納が累積されない工夫や取組みが行われた結果、給食費の収納率が99.9%に達している。（13校中10校において100%）

給食の質を担保し、給食費値上げを最小限に止めるためにも、安定的な給食費徴収を今後も継続して行ってほしい。

老朽化した給食センターが改築（建替え）されることになった。国が定める衛生管理基準を満たすためにも適切な判断である。

児童生徒が楽しみにしている「給食」は、メニューの工夫や食の安全、質の向上が重要である。新給食センターにおいて美味しく安全な学校給食の提供が一日も早く行われることを期待したい。

4 生涯学習・図書館事業

（1）生涯学習事業

①自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供

人生100年時代において、各世代に応じた多様な学習機会・場の提供は非常に重要な事業である。市内の各公民館が中心となって市民の学習意欲を受け止める活動を期待したい。また、30年以上も継続している「富士登山（中学生）」の事業は非常に興味深い事業である。毎年100名近い中学生が仲間と共に自然の厳しさと戦いながら山頂に挑むことは、心身の健全な成長に資すると考える。

2013年、富士山が世界文化遺産に登録されたことで、世界中の観光客からも注目を浴びている。富士山登頂を目指すこの事業がさらに意義深いものになった。今後も、登山ガイドの配置（3名）などに配慮し、安全で感動的な体験活動の継続を望みたい。

②生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援

35回を迎えた「守谷ハーフマラソン大会」は広く市民に認知され、全国各地のマラソン愛好者から高い評価を受けている。長期に渡って継続して実施していることを高く評価したい。運営に携わるボランティアスタッフ（約800名）が大会を盛り上げるなど、守谷市の「冬の風物詩」としての位置付けも定着している。今後も、多くの市民がスポーツに親しむきっかけとなるような魅力的な大会の開催を目指してほしいと思う。

「夏休みプール開放事業」では、常総運動公園屋外プール・民間施設プールを利用できる「利用券」を「児童1人3回分」発行したが、利用率は3割程度に止まった。夏休み期間中の安全なプール利用や公共の場における公德心向上のためにも、利用率をさらに向上させる工夫を講じたい。

③親しみを感ずる芸術・文化の推進

「夕べのコンサートを毎回楽しみにしている。手作り感があって素晴らしい。」（コンサート来場者）との声があるように、出演者が運営に参画したり、自らの手でコンサートを創り上げたりしていることが、市民に評価されている。

芸術・文化の振興のため芸術鑑賞の場の提供に、今後も尽力していただきたい。

④文化財を愛する心の育成

「市内の指定文化財を知っている」割合が25.3%である。（市民アンケート）文化財、史跡等の認知度がやや低い。認知度向上のため、広報活動の一段高い取り組みとさらなる工夫改善を検討していただきたい。

⑤安心して遊べる場の提供

放課後子ども総合プランは、「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」の運営を一体的に運営することで、創作活動やスポーツ・ダンス・遊び・音楽・英語など多様な活動を行わせながら、安心・安全な居場所を提供している。待機児童ゼロを継続している取り組みを高く評価したい。

（2）図書館事業

①いつでも気軽に気持ちよく利用できる図書館

図書館を利用する市民にとって一番のニーズは、「利用しやすさ」だと考える。年間平均貸出数（市民一人当たり）が県内トップクラスであること、市民一人当たり図書館資料費が県内ナンバーワンであることは、高く評価できる。利用者アンケートにあるように、「市直営になっても、開館日や開館時間を変えないでほしい。」という市民の要望は「利用しやすさ」を実体験しているからこそ出てくる要望である。市民の生活様式に対応した運営と蔵書の充実を図り、「利用しやすさナンバーワン」の図書館運営を目指してほしい。

②図書館機能の強化とサービスの充実

学校図書館は「本好きの児童生徒」を育成するために重要な役割を持つ。とりわけ小学校の図書館はその第一歩である。新しい本がたくさんあり、読みたい本がたくさん

んあるような魅力的な学校図書館であることが大切である。

蔵書数については文科省の定める学校図書館図書基準は「最低基準」と捉えて、この基準を上回る整備を目標としてほしい。蔵書図書が古くなり子どもたちが手に取ることが少なくなったものは適切に廃棄処理を行い、新刊本が多く並ぶ学校図書館を目指してほしい。「調べ学習などで活用される図鑑や資料図書は1冊数千円するうえ、ほとんどがシリーズもの（10冊以上）になっている。シリーズでそろえようとする

と、児童に人気のある図書に十分な予算をかけられないことになるので、困っている。」
「古い本を廃棄しようとする

【総括】教育委員会の全体評価

守谷市教育委員会の施策全般において、年度毎の成果をきめ細かく分析した上で事業の継続性を保ち、時代の変化を先取りした取り組みに多くの予算を掛け、大きな成果を導き出してきている。このことは「新しい時代をたくましく生きぬく人づくり」という守谷市の教育目標の理念に基づいた施策が確実・適切に実行されていることを感じさせられる。

教育委員会の人づくりは守谷市の未来づくりに通じている。適切な予算配分のもと、時代のニーズに応え、児童生徒に確かな学力を保証し、豊かで生きがいのある街づくりのために、今後も守谷市教育委員会の発想力と機動力を十分にいかし、効果的・有効的な事業展開に取り組んでいただきたい。